

第 11 回学生鉄鋼セミナー製鉄・製鋼コースが、平成 29 年 12 月 13 日～15 日の 3 日間、株式会社神戸製鋼所・加古川製鉄所および淡路ゆうなぎ荘に於いて、製鉄・製鋼研究に携わる日本全国の大学から修士 1 年の学生 25 名（製鉄コース 13 名、製鋼コース 12 名）が参加して開催された。

初日は、JR 舞子駅に集合し、高強度鋼線が使用されている明石海峡大橋を渡って淡路ゆうなぎ荘へ。オリエンテーション後、九州大学・国友先生から受講生に対し、「セミナー期間中は積極的に活動して一つでもお土産を持って帰って欲しい」との開講挨拶があった。大学・企業各委員の紹介、そして初日のメインイベントである鉄鋼各社からの企業紹介があった（新日鐵住金・松村委員、JFE スチール・中瀬委員、神戸製鋼所・中須賀委員）。技術職と研究職の違い、鉄鋼業界が人材をととても大切にしていること、また研究開発に多くの予算を投入していることなどの説明に、受講生は若干緊張した面持ちながらも真剣に聴いており、鉄鋼業に対する関心の高さが伺えた。開会式を兼ねた夕食会は、東京工業大学・小林先生の挨拶、大阪大学・小西先生の挨拶により開宴した。受講生からは研究内容や趣味を交えた自己紹介があり、また活発な質疑応答も飛び出し、初日から十分なコミュニケーションができた印象であった。夕食会が終了後は自由懇親会が開催され、受講生・委員間で深夜まで白熱した議論が行われた。

2 日目は、国友先生の“製鉄プロセス概論”、小林先生の“製鋼プロセス概論”からスタートした。概論は昨年度のアンケート結果を受けて改善され、両コース合同で受講することとなった。その後、コースに分かれて受講生の研究紹介が行われた。研究内容は多岐に亘り、発表手法共に完成度の高いプレゼンテーションがなされ、活発な意見交換ができた。受講生からの企業への事前質問に対しては、各社から丁寧な回答があり、今後大学で研究を進める上でのヒントを得る貴重な機会となった。夕刻からは再び両コース合同で「各社研究開発事例紹介」と題し、企業委員（JFE スチール・佐藤委員、新日鐵住金・岡山委員）からフェロコックスや循環元素無害化など、近年注目のトピックスについての紹介があった。企業研究におけるスケールアップや実プロセスへの適用事例は特に勉強となった点であり、“鉄”に以前にも増し興味を持った受講生も多かったことと推察される。国友先生の挨拶、小職の挨拶により開宴した懇親会では、大学やコースの垣根を越えて親睦を深めることができ、盛会となった。受講生と委員との密な交流や受講生同士の知己の輪の広がりにより、研究をさらに進めて講演大会へ参加することや、鉄鋼産業を将来担っていくといった目標を思い描くことができ、大学での研究に取り組む意欲が向上したものである。

3 日目は、神戸製鋼所・技術開発センターに移動し、製鉄所全体の概要を紹介頂いた後、加古川製鉄所の製鉄・製鋼プロセス設備の見学へと向かった。製鋼工場の転炉制御室前では、内部が赤熱した転炉を見学することができた。定休日と重なったため高炉と新溶銑処理工場は車窓見学となったが、実操業に関する様々な質問に丁寧に答えて頂き、上工程を集約したばかりのホットな製鉄所を肌で感じることもできた。本セミナーの閉会に際して小林先生から挨拶を頂き、JR 加古川駅にて無事解散となった。

以上のように、本セミナーは受講生にとって貴重な経験となり、大変充実した内容で活況のうちに終了した。最後になりましたが、本セミナーの見学・研修に多大なご尽力を頂きました株式会社神戸製鋼所・中須賀委員に深く謝意を表します。

